

はじめに

平成23年3月11日の東日本大震災により、本県は人的にも物的にも極めて甚大な被害を受けました。多くの尊い命が奪われ、各地域の学校が浸水や倒壊で校舎が使えないほど深刻な被害を受けましたが、その一方で多くの学校が地域の復興拠点として極めて重要な役割を果たしました。

避難所となった学校では、小・中・高校生が自ら進んで物資搬入や、生活用水の汲み出しを手伝うなど、避難生活を送る人々のために貢献する姿が目立ちました。身を呈して災害復興にあたる方々の姿や避難所の教師の姿、地域の自治を懸命に守る方々の姿などにより、これまでも子どもたちにはぐくまれてきた、人としてよりよく生きたいとの思いや願いが引き出され、今すべきことに取り組みずにはいられない前向きな姿勢となって表れたように思います。

はからずも本県では、昨年3月に策定した宮城県教育振興基本計画における重点的取組の一つとして「志教育」を掲げ、「小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育」を全県的に推進していくことといたしました。子どもたちには、すべての学校段階で、自己と社会のかかわりを意識させ、社会の中で自分ができることや果たすべき役割は何か、そしてその実現のためにはどのような取組が必要かなどについてより深く考えさせ、社会的存在としての人間の生き方を探求する姿勢を育みたいと考えております。

「志教育」の今後の展開は、本県復興の歩みと軌を一にすることになります。まさに今こそ、本県の復興と将来の発展を支えるみやぎの子どもたちのために、これまで培われてきたみやぎの教育の底力を信じ、県内全ての教師が一丸となって「志教育」の種子に光を与え、水を注ぎ、ひとつひとつの取組を着実に進めていくときであると考えます。

本冊子「みやぎの志教育推進 授業や活動のヒント集」は、今後、各学校が、校長先生方のリーダーシップの下、それぞれの実情に応じて自校ならではの「志教育」をより確かに推進していくことを願い作成しました。今回の震災を経て、各学校ではその地域ならではの「志教育」が展開され、実践の積み重ねがなされていくものと思います。みやぎの子どもたちが、不撓不屈の精神をもち、本県の次代を築く未来の担い手として大きく成長していくことを願い、各学校において自信と誇りをもって「志教育」に取り組まれるよう期待しております。

平成23年5月

宮城県教育委員会教育長
小林 伸 一